

2014 年 11 月 4 日

## 電通、JICA の ODA 事業で、アフリカの「ブランディング」に挑戦 － エチオピア製品のブランディングから、国のリ・ブランディングへ －

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：石井 直、以下「電通」）は、独立行政法人国際協力機構（本部：東京都千代田区、理事長：田中 明彦、以下「JICA」）の ODA（政府開発援助）事業の一環として、ブランディングの観点からアフリカを支援する新しい取り組みをスタートさせます。

具体的には、エチオピア連邦民主共和国（以下「エチオピア」）産品をブランド化し、同国のリ・ブランディングにつなげていく取り組みです。

エチオピアは 10 年以上にわたって 8%以上の経済成長率を維持し、先進的な海外企業から投資先として注目を集めています。しかし、一般的には 30 年前に起きた「飢餓」のネガティブイメージがまだ払拭されていません。こうした負の遺産は、他のアフリカ諸国にも共通して見られるものであり、市場におけるアフリカ産品の価値を不当に下げ、流通を阻害している一つの要因となっています。今回行うリ・ブランディングは、産品のブランド価値によって、このネガティブイメージを払拭し、ひいては新たな魅力を印象づける活動といえます。

例えば、エチオピア高地の寒冷な気候で育つ羊の革は、きめ細やかで耐久性に優れており、知る人ぞ知る最高級素材です。そうした産品を発掘し、その品質にふさわしい国際競争力を確立するためには、産品の歴史や文化的背景を踏まえた市場での競合優位性を明確にし、消費者の五感に訴えるブランド価値を抽出した上で、それを効果的にアピールしていかなければなりません。また一方で、生産者の側も、そうしたブランド価値を誇りに思い、その価値を保つための品質管理の努力を続けていく必要があります。「産品のブランド化」とは、そうした価値の抽出・アピール・管理を一体化させる活動です。

今回のプロジェクトは、電通のプランナーが現地を訪れ、魅力的な産品を発掘し、生産現場を見て、ブランド価値を抽出する活動からスタートします。その後、ブランドの魅力を効果的に見せるビデオなどのプロモーションツールを制作し、トレードショーでの展示やテスト販売を行っていきます。そして、その全ての過程で現地生産者とのワークショップを重ね、ブランドへの深い理解と品質管理への意識を高めていきます。

なお、プロジェクトの期間は2014年11月から2016年3月を予定しており、途上国開発のコンサルティング事業などを手掛ける一般財団法人国際開発機構（FASID）との連携により推進してまいります。

以上

**【リリースに関する問い合わせ先】**

株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション局 広報部  
河南（カンナ） TEL：03-6216-8041

独立行政法人国際協力機構（JICA）  
産業開発・公共政策部 民間セクターグループ  
片井 TEL：03-5226-8047  
Email：Katai.Keiji@jica.go.jp